

# 農福連携 JA

①

「職場づくり塾」2022年度の第4部は、「農福連携とJA」と題して、千葉大学大学院園芸学研究院教授の吉田行郷氏が講師を務めます。(5回掲載)

## 講師

よしだ ゆきよ

1962年東京都生まれ。農水省大臣官房企画室、農林水産政策研究所次長などを経て2021年から現職。

千葉大学大学院園芸学研究院教授 吉田行郷氏

## 取り組みへの期待とその方法

農家での施設外就労による農作業の様子(香川県社会就労センター協議会提供)



近年、農業サイドと福祉サイドが連携して農業分野で障害者の働く場をつくらうとする取り組みである「農福連携」が注目を集めています。こうした取り組みは、農業サイドからは、農村地域での人口減少・高齢化

期待されているのかを考えるとみましょう。

### 先進事例参考に 横展開で発展も

まだ「農福連携」という言葉がない時代から、既に各地に農業分野で障害者の働く場を生み出す素晴らしい先進的な取り組みがありました。点的存在で、あまり広くは知られていませんでした。ところが、2010年代に入ってから、全国各地でそうした取り組みが行われるようになり、その数が増え続けています。近年になると、先進的な取り組みを参考にした横展開も見られ始めています。最近では、「農福連携」という言葉もすっかり定着し、新聞やテレビでも取り上げられるようになり、注目度は各段に上がってきています。

### 福祉事業所から 企業・JAに拡大

では、「農福連携」は具体的にどのような取り組み

## 職場づくり塾 第4部

れているのでしょうか。まず、最も多くて全国的に広がっているのが、社会福祉法人・NPO法人などが運営する障害福祉サービス所(以下、「障害福祉サービス事業所」という)で働く障害者が、「施設外就労」(施設の利用者と職員がユニットを組んで、施設の外に出向き請負作業を行う活動)という形で、農家の農作業を手伝う取り組みです。これらは府県やJAと結び付いた取り組みが多くあります。そして、障害福祉サービス事業所が自ら農業を行う取り組みが古くからあり、現在も着実に広がりを見せています。

### 二トや認知症 対象者に広がり

それらに加えて、近年は、農家や農業法人が障害者を雇用する取り組みも、着実に増えてきています。さらには、企業やJAが特例子会社や障害福祉サービス事業所を設置して、農業分野における障害者就労に

取り組む動きも出てきています。こうした取り組みも、農業と福祉の双方を理解し、両サイドからの協力を得ないと成功しないことから、農福連携の一つの形であると考えていいと思います。また、病院やNPO法人などが障害者に農作業に取り組んでもらうことで、身体や精神の状態を良くしていくこととする園芸療法の取り組みも農福連携に含めて捉える必要があります。

そして、取り組みの対象も、身体・知的・精神(発達)の障害を抱えた障害福祉サービスの対象者から、近年では、二トやひきこもり状態にある人たち、刑務所出所者、認知症高齢者などへと、広がりを見せています。

では、こうした農福連携の取り組みにJAは、どう関わってきているのでしょうか。次回以降、具体的な事例も含めて見ていきましょう。(次回は13日付)

# 障害者に働く場 提供